

国語研共同研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」（経年変化班）

シンポジウム「日常会話コーパス」VI
2021年3月4日（木）13:00-17:20
（オンライン）

『昭和話し言葉コーパス』における 用言のアクセント

—結合動詞および動詞後続形式のゆれ—

高田三枝子

愛知学院大学

takadam@dpc.agu.ac.jp

はじめに

『昭和話し言葉コーパス』の活用

言語を知るといふ目的においてどのように活用できるか？

○ 通時的変化を観察する資料として利用可

→ 後の時代（現在・未来）の「ゆれ」を観察、比較

○ 録音資料...音声の分析が可能

ただし、音響分析においては音質的な限界あり

比較的頑健な特徴 ...持続時間、ピッチなど

→ アクセントの聞き取り可

★本研究は...用言のアクセント

でも、今回は 動詞のみ！（cf.形容詞）

昭和話し言葉コーパスのみ！（cf. CSJなどとの比較）

資料

- 『昭和話し言葉コーパス』
話者...首都圏（東京・千葉・神奈川）出身者
講演、挨拶・祝辞
11人分、12講演（土岐善麿 祝辞×2回）

分析対象資料

世代	File_ID	話者	出身	収録年	年齢	生年	Event_type	時間長(秒)
1885~1909	54-05_SC	土岐 善麿	東京	1955	70	1885	式典	184
	58-07_SC	土岐 善麿	東京	1959	74	1885	式典	288
	58-05_SC	時枝 誠記	東京	1959	59	1900	式典	832
	58-04_SC	関口 隆克	東京	1959	55	1904	式典	219
	74-05_SC	平塚 益徳	東京	1974	67	1907	式典	448
1910~1919	54-12_LT	林 大	東京	1955	42	1914	その他記念講演会	3,227
	67-04_LT	見坊 豪紀	東京	1968	54	1914	その他記念講演会	3,131
1920~1929	57-02_LT	野元 菊雄	神奈川	1957	35	1922	講座	2,617
	57-06_LT	永野 賢	千葉	1957	35	1922	講座	1,997
	57-08_LT	林 四郎	東京	1957	35	1922	講座	2,075
	57-04_LT	宮地 裕	東京	1957	33	1924	講座	3,824
	68-03_LA	西尾 寅弥	東京	1969	43	1926	創立記念講演会	3,256

cf. 1951年『日本語アクセント辞典』、1960年『全国アクセント辞典』、1966年『日本語発音アクセント辞典』

分析内容

- 「用言」... 今回の対象は動詞のみ
- 動詞のアクセント... 2「系統」(終止・連体形で 平板型(0型)／起伏型(-2型))
系統ごとに、活用形、後続形式により変化
- 動詞アクセントのゆれ、変化傾向
＜参考アクセント辞典・文献＞
 - 『新明解日本語アクセント辞典 第2版 CD付き』(2014) (以降、新明解)
 - 『NHK日本語発音アクセント新辞典』(2016) (以降、NHK新)
 - 郡史郎(2020) 付表「助詞・助動詞類のアクセント一覧」
- ・ 複合動詞の起伏(-2)型系統への変化・統合傾向 (新明解、NHK新、最上・坂本・塩田・大西1999、など)
- ・ 助詞・助動詞後続時のゆれ＝新しい型の出現

本発表での着目

- 「結合動詞」 (新明解、付録60p. 「噛み合う」 など)
- 動詞に後続する助詞・助動詞のアクセントにゆれが指摘されているもの

(郡2020、NHK新、新明解)

分析方法

1. 分析対象の選定

1-1. 書き起こしテキスト⇒ 形態素解析→動詞（動詞、動詞B）を抽出

- 使用ツール：KH Corder (ver. 3.Beta.02c, (<http://kncoder.net/>)), ChaSen

1-2. 分析対象となる形式を目視で抽出

- 「結合動詞」
- ゆれが指摘されている助詞・助動詞
(+αとして...テイッテ(タ)、テオイテ(タ)、テシマウ...ただし、ほとんど現れず今回は分析不可)

<対象選定に関する留意点>

- 補助動詞 →補助動詞部を別のアクセント単位として別動詞扱い ※後続要素の分析
- サ変動詞 →前部にアクセントがある →スル部を別のアクセント単位として平板動詞扱い
例) 平板+「たい」「と」「か」などの探索 →「食べていたいと」「調査するか」なども対象

2. アクセントの聞き取り→記録

結果

- 結合動詞のアクセント
- 後接する助詞・助動詞のアクセント
 - 「～たい・～ない」
 - 「～か」
 - 「～と」

※述部の中心となる動詞に近い順

結合動詞

「結びつきの強いもの」（新明解）

• 動詞連用形＋動詞 e.g. 結びつく、申し上げる、成り立つ

● 伝統的規則：前部要素と逆のアクセント型になる（新明解）

起伏＋起伏	→平板	か]く＋あらわ]す	→	かきあらわす
起伏＋平板	→平板	と]る＋あげる	→	とりあげる
平板＋起伏	→起伏	ひろう＋だ]す	→	ひろいだ]す
平板＋平板	→起伏	いう＋かえる	→	いいかえ]る

● 複合動詞（結合動詞）は起伏型に統合傾向

★ 伝統的規則にどの程度従うか

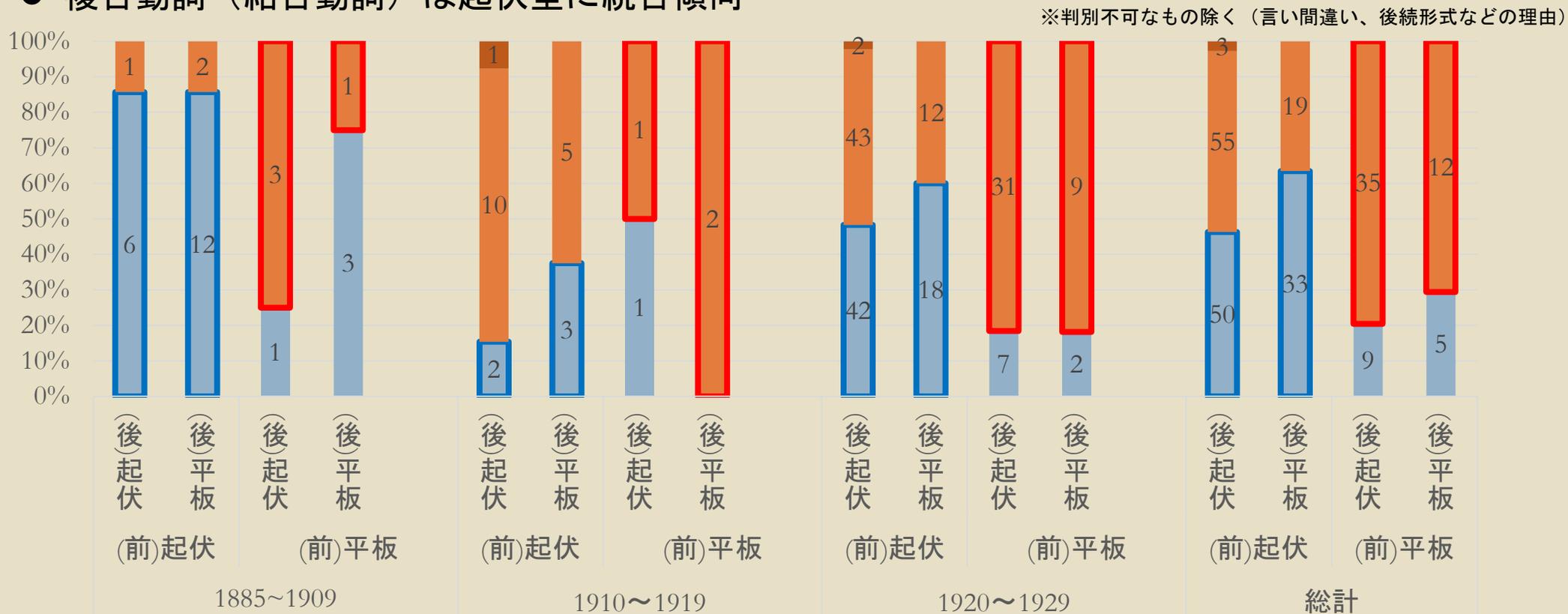
★ 起伏型への統合状況はどうか に注目

資料内に見られた結合動詞一覧

※判別不可なもの除く（言い間違い、後続形式などの理由）

	1885～ 1909	1910～ 1919	1920～ 1929	総計	語例
起伏 + 起伏	8	13	90	111	表し得る、現れ得ない、あり得る、受け取る、打ち込む、起こり得る、落ち着く、兼ね備える、書き改める、書き表す、書きかける、書き出す、書き直す、駆け付ける、かけ離れる、勝ち得る、考えあわせる、考え得る、切り取る、切り離す、組み合わせる、焦げ付く、差し迫る、頼り過ぎる、作り直す、問いかける、とり得る、取り掛かる、取り込む、取り壊す、取り出す、取り付ける、取り巻く、投げかける、なり得る、なり過ぎる、成り立つ、挟み込む、はせ参じる、話しかける、はみ出す、はみ出る、掘り下げる、まつわり付く、見出す、見返す、見つめる、見積もる、見守る、見分ける、分かりきる （計51種）
起伏 + 平板	15	8	32	55	ありふれる、書き終える、書き換える、書き続ける、書き始める、ご紹介申し上げる、差し替える、せき止める、作り上げる、付け加える、解き及ぶ、取り上げる、取り扱う、取り入れる、とり抜ける、取り巻く、混じり始める、申し上げる、申し述べる、持ち続ける （計20種）
平板 + 起伏	4	2	41	47	あげ得る、言い表す、言い切る、行き届く、埋め合わせる、押し付ける、お話しつくす、抱え込む、重なり合う、関係しあう、聞き取る、結婚し得る、され得る、しかける、説明しきる、就職し得る、重複しあう、重複し得る、使い分ける、つながりあう、抜き取る、引き受ける、引き出す、拾い出す、振り返る、見つけ出す、向かい合う、結び付く、やりかける、要求し得る、呼び掛ける、両立し得る、割り切る （計33種）
平板 + 平板	4	2	11	17	言い換える、行き渡る、押し広げる、着かえる、積み重ねる、飛び越える、乗り入れる、乗り捨てる、引き継ぐ、呼び寄せる （計10種）
総計	31	25	174	230	計114種

- 伝統的規則：前部要素と逆のアクセント型になる（図中、強調）
- 複合動詞（結合動詞）は起伏型に統合傾向



- ◆ 必ずしもルール通りでないが、全く従わないわけでもなさそう
 - ・ 特に1885~1909の世代では、前部起伏→全体平板、は比較的保たれている
- ◆ 全体に起伏型が増えている
 - ✓ 前部平板→全体起伏、は保持傾向
 - 前部起伏→全体平板、は減少傾向

■ 平板 ■ 起伏 ■ 起伏、非融合

後部要素による偏り

。「～得る」はすべて起伏

構成	全体のアクセント	1885～ 1909	1910～ 1919	1920～ 1929	総計
起伏 + 起伏 例) あり得る なり得る	起伏	1	3	19	23
	平板	-	-	-	-
平板 + 起伏 例) ～し得る あげ得る	起伏	1	-	8	9
	平板	-	-	-	-
総計		2	3	27	32

。「～あげる」は平板に偏る

「～あげる」 ※「不明」は「～た]い」後続

構成	全体のアクセント	1885～ 1909	1910～ 1919	1920～ 1929	総計
起伏 + 平板 例) 申し上げる 取り上げる	起伏	2	-	-	2
	平板	6	2	14	22
	不明	-	-	1	1
総計		8	2	15	25

。「～出す」はわかるる

「～出す」 ※「不明」は「～そ]うだ」後続

構成		1885～ 1909	1910～ 1919	1920～ 1929	総計
起伏 + 起伏 例) 見出す はみ出す	起伏	2	1	4	7
	平板	1	2	3	6
	不明	1	-	-	1
平板 + 起伏 例) 引き出す	起伏	-	1	1	2
	平板	-	1	-	1
総計		2	3	5	10

個人内のゆれ

1885～1909

		平板	起伏
土岐 善磨	起伏+起伏	3	
	平板+平板	1	
時枝 誠記	起伏+起伏	2	1
	起伏+平板	4	
	平板+起伏	1	1
	平板+平板	1	1
関口 隆克	平板+起伏		1
平塚 益徳	起伏+起伏	1	
	起伏+平板	8	2
	平板+起伏		1
	平板+平板	1	

1910～1919

		平板	起伏
見坊 豪紀	起伏+起伏		7
	起伏+平板	2	5
	平板+平板		2
林 大	起伏+起伏	2	4
	起伏+平板	1	
	平板+起伏	1	1

世代差

- ルールに従う傾向 古>新
特に、前部起伏時の全体平板
- 個人内での揺れ 古<新

1920～1929

		平板	起伏
永野 賢	起伏+起伏	8	6
	起伏+平板	4	2
	平板+起伏	3	4
野元 菊雄	起伏+起伏	3	8
	起伏+平板	2	
	平板+起伏		5
	平板+平板	1	3
林 四郎	起伏+起伏	7	3
	起伏+平板	2	2
	平板+起伏	2	4
	平板+平板	1	3
	起伏+起伏	3	11
宮地 裕	起伏+起伏	8	6
	平板+起伏	1	8
	平板+平板		1
	起伏+起伏	21	17
西尾 寅弥	起伏+起伏	2	2
	平板+起伏	1	10
	平板+平板		2
	起伏+起伏		12

個人内のゆれ

同じ語の中でもゆれが存在

- 時枝誠記（1900年、東京）
 - ・ 「振り返る」 = 平板×2回（フリカエツテみま]した）、起伏×4回（フリカ]エリ）
- 平塚益徳（1907年、東京）
 - ・ 「申し上げる」 = 平板×2回（モウシアゲサシテいただきま]すが）、起伏×2回（モウシアゲサ]シテい[ただきま]すならば）
- 見坊豪紀（1914年、東京）
 - ・ 「取り上げる」 = 平板×2回（トリアゲタ人）、起伏×4回（トリア]ゲタ理由）
 - ・ 「取り扱う」 = 平板×1回（トリアツカッテ]モ）、起伏×1回（トリアツカ]ッテあります）
- 林大（1914年、東京）
 - ・ 「書き表す」 = 平板×1回（カキアラワサレテいる）、起伏×4回（カキアラワ]スところ）
- 永野賢（1922年、千葉）
 - ・ 「駆け付ける」 = 平板1回（カケツケタ子供）、起伏×1回（カケツケ]ル。）

Cf. 逆に、ゆれない...西尾寅弥（1926年、東京）「成り立つ」20/21回：平板 ナリタツ ナリタタナイ

?ナリタ t 場合

ゆれの指摘される助詞・助動詞

- 動詞に後続する助詞・助動詞のアクセントにゆれが指摘されているもの（郡2020、NHK新、新明解）

先行動詞 アクセント	助詞・助動詞
起伏+	ず(文語否定・3拍以上)、だけ、どころか、ばかり、べき、らしい
平板+	(よ)うと、か、が、さえ、しか、すら、ぜ、ぞ、そうだ、たい、だろう、でしょ う、って、と、ない、ながら、に、のみ、は、まで、も、や、よ、より、を
限定なし	くらい・ぐらい、ずらい、つつ

- うち、資料全体で20回以上出現したもの ⇒ 今回の分析対象

平板+と	253	ワラウト／ワラウ]ト
平板+ない	95	ワラワナイ／ワラワナ]イ(新)
平板+か	66	ワラウカ／ワラウ]カ(新?)
平板+たい	54	ワライタイ／ワライタ]イ(新)

※「～ている」など補助動詞に続くものも含む

以下、「ない・たい」「か」「と」の順に報告

平板＋「ない」「たい」

○ 「～ない」

- 新明解：「動詞の型を変えない。高く平らにつく。」
- NHK新：「動詞部分が『平板式』の場合には、全体として『平板式』になる。」例) モラナイ
「現代では、平板式動詞に連なる場合に[モラナ\イ]などのような起伏式も用いられているが、これは新しい形である。」
- 郡(2020)：基本的にノラナイのように、無核とした上で
「形容詞平板式の新形に一致」する型（＝ノラナ]イ）の存在を指摘。
テ形＋「ない」は別扱い。ノッテナ]イ

○ 「～たい」

- 新明解：「動詞の型を変えない。高く平らにつく。」
- NHK新：「動詞部分が『平板式』の場合には、全体として『平板式』になる。」例) モリタイ
「『たい』『ながら』は、[付属語決定型]としても現れる。」例) モリタ]イ
- 郡(2020)：ノリタイ（無核）、ノリタ]イ（有核）を両方示し、後者を新形とする。

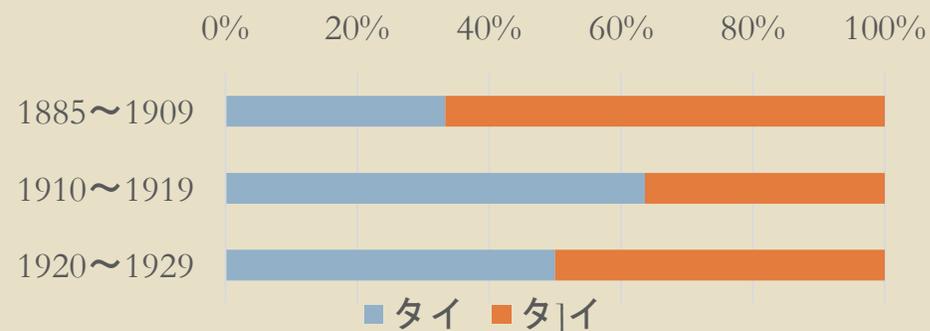
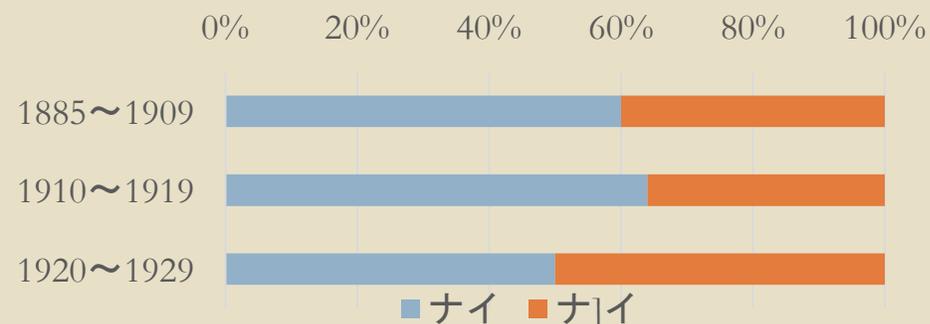
➤ 無核（ナイ/タイ）＝旧形、有核（ナ]イ/タ]イ）＝新形 ということか

★ 無核になるか、有核になるかに注目

平板 + 「ない」「たい」 ; 無核 (ナイ/タイ) or 有核 (ナ]イ/タ]イ)

	ナイ	ナ]イ	不明	総計
1885~1909	3	2	1	6
1910~1919	16	9	1	26
1920~1929	31	31	1	63
総計	50	42	3	95

	タイ	タ]イ	不明	総計
1885~1909	1	2	1	4
1910~1919	7	4	1	12
1920~1929	19	19	-	38
総計	27	25	2	54

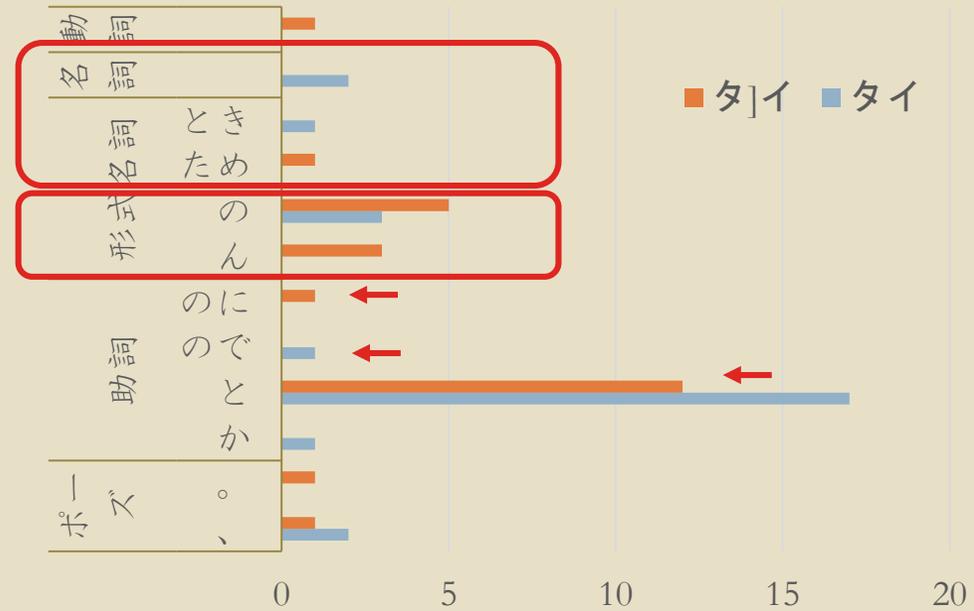
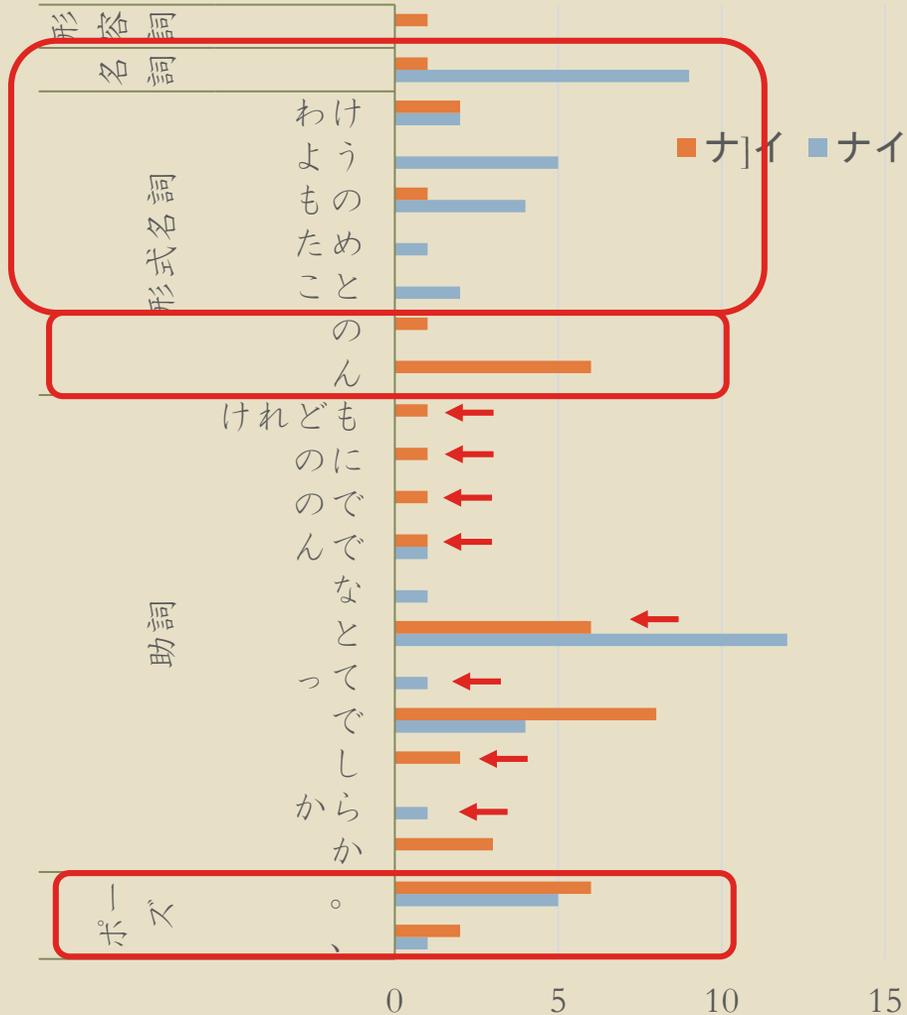


- 無核と有核は拮抗
- 世代的傾向もはっきりしない (ただし、1910~1919では無核が優勢か)

* 後続要素による違いがあるかも？

平板+「ない」「たい」；無核 or 有核

後続要素による使い分け



。「ない」と「たい」に共通傾向はありそう

- ・ ポーズ後続では、有核・無核が拮抗
- ・ 名詞・形式名詞では、無核が優勢？
(ただし、「の」「ん」では有核)
- ・ 「から」「って」「し」「と」「ので(んで)」「のに」「けれども」

=「下がり目挿入型」 「ない」の連母音/ai/ ⇒核が境界から-1？

(ナイ+「と」のうち4つナイト)

平板＋「か」

- ・ 新明解：「助詞の第一拍から低く下がってつく。」
- ・ NHK新：特に記述なし
- ・ 郡(2020)：協力型・順接・用言尾高要求タイプ（＝平板型用言に低接する）に分類
ノル]カ を第一に示した上で、()付きでノルカも示し
後者（高接）を「旧形と見るべきか、あるいは表現上の変種か」とする

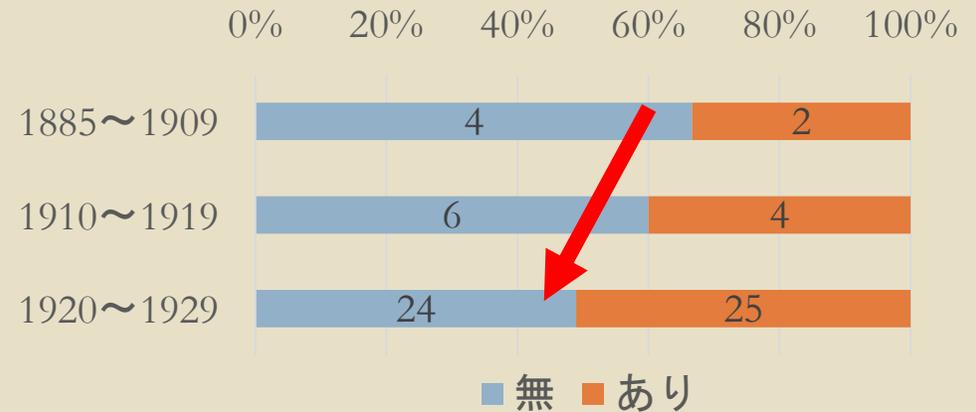
★ 先行する語幹（動詞、あるいは動詞＋接辞）が平板の場合に、
高接（核を入れなくて高く続く）か、低接（核を挿入し低く続く）かに注目

★ 先行する要素による使い分けにも注目

- ・ 「付属語にさらに付属語が連なるときには「下がり目」をはさむ」（NHK新, 付録p.218）
- ・ 「協力型の助詞をふたつ続けるとき」①「低くつく」、②「同じ高さで続く」の2種（郡2020, p.16）
（ただし「か」は郡(2020)の示す中になし）

平板＋「か」；低接か、高接か？

行ラベル	高接	低接	語幹有核	総計
1885～1909	4	2	-	6
1910～1919	6	4	-	10
1920～1929	24	25	2	51
総計	34	31	2	67



- 高接するものも、低接と同じ程度見られる
- 世代が下るにつれ、次第に、低接型が増加している可能性あり
→高接が旧形、低接は新形の可能性あり

平板＋「か」；低接か、高接か？

- 。「か」に先行する要素による使い分け

	高接	低接	語幹 有核	総計
終止	29	27		56
たい	1			1
ない			1	1
よう	1			1
た	3	4		7
と			1	1
総計	34	31	2	67

先行要素の有無、種類による違い

...特に見いだせない

平板＋「と」

- 新明解：基本的に「高く平らにつく」とするが、
「但し、引用の「と」は平板式動詞には低く下がって付くことが多い」とも
- NHK新：「動詞部分が『平板式』の場合には、間に『下がり目』をはさむ。」とするが、
「『単純型』としても現れる。」（＝平板型用言に高接する）
- 郡(2020)：協力型・順接・用言尾高要求タイプ（＝平板型用言に低接する）に分類
ノル]カ を第一に示した上で、()付きでノルカ も示し
後者を「旧形と見るべきか、あるいは表現上の変種か」とする

★ 先行する語幹（動詞、あるいは動詞＋接辞）が平板の場合に、低接するか、高接するかに注目

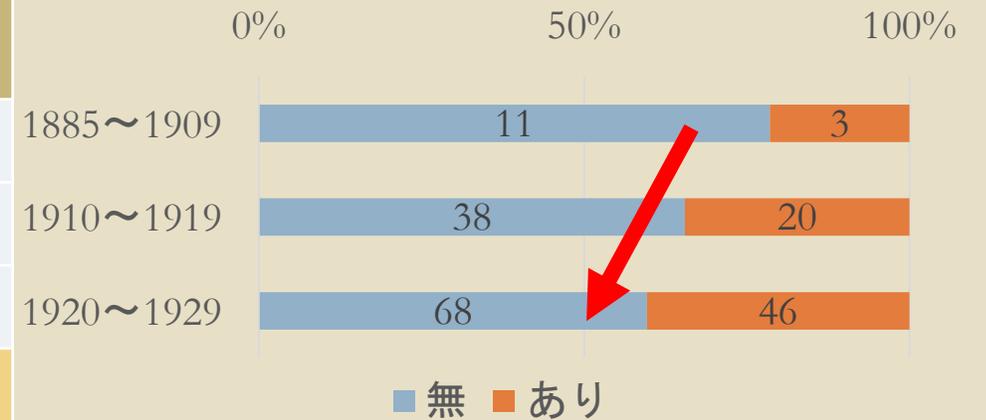
★ 「と」の用法による使い分けにも注目

- 引用・列挙で低接、条件で高接（郡2020, p.22）

★ 先行する要素による使い分けにも注目（先の「か」と同様）

平板＋「と」；低接か、高接か？

	高接	低接	「と」 無声化	語幹 有核	総計
1885～1909	11	3	4	3	21
1910～1919	38	20	17	7	82
1920～1929	68	46	13	24	151
総計	117	69	34	34	254

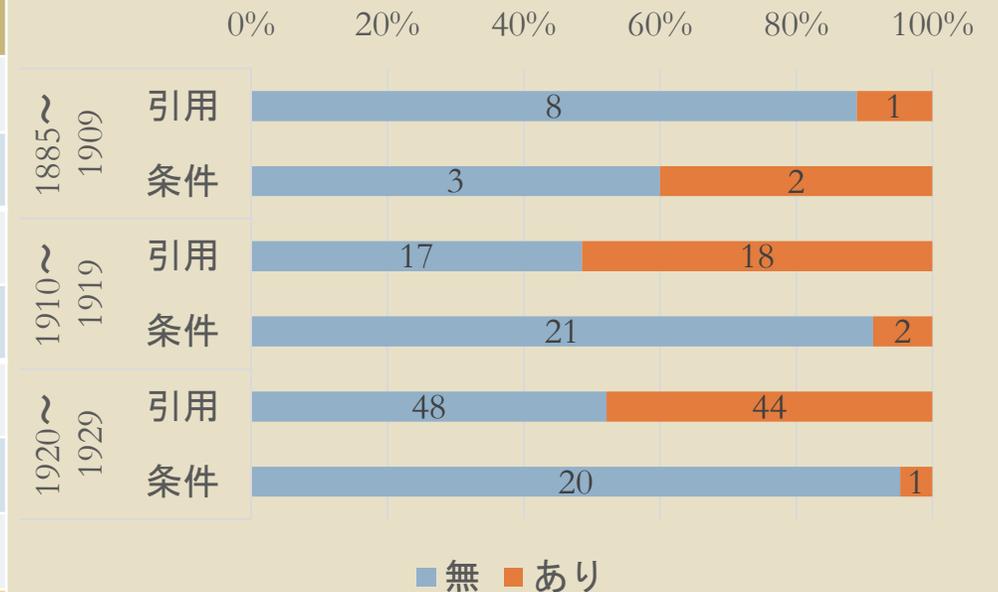


- 全体に、高接が優勢
- 次第に、低接が増えている？
→高接が旧形、低接は新形の可能性あり

平板＋「と」；低接か、高接か？

。「と」の用法による使い分け

		高接	低接	と 無 声 化	語幹 有核	総計
1885～ 1909	引用	8	1	4	2	15
	条件	3	2	-	1	6
1910～ 1919	引用	17	18	17	4	56
	条件	21	2	-	3	26
1920～ 1929	引用	48	44	13	23	128
	条件	20	1	-	1	22
	列挙	-	1	-	-	1
総計		117	69	34	34	254



- 1885～1909年のみ別傾向：引用では高接が優勢、条件では拮抗...先行研究(現在の記述)と異なる
- 1910年以降：条件で高接が優勢、引用で拮抗
- 「引用で低接、条件で高接」は新しく生じた傾向かもしれない

平板＋「と」；低接か、高接か？

。「と」に先行する要素による使い分け

《引用》	高接	低接	と無 声化	語幹 有核	総計
命令		1			1
終止	36	37	16	10	99
終止pose	4				4
(さ)せる		1			1
(ら)れる		2		2	4
たい	15	3	3	10	31
ない	7	1	1	4	13
た	7	11	5	3	26
たpose	2				2
か	2	7	9	1	19
命令		1			1

《条件》	高接	低接	と無 声化	語幹 有核	総計
終止	39	5		2	46
終止pose	1				1
(さ)せる	1				1
(ら)れる				1	1
ない	2			1	3
って	1				1

終止形：条件では高接が優勢

引用では拮抗

- ・「た」でも拮抗

「たい、ない」：用法に関わらず高接が優勢

ポーズ：高接のみ

◆ 低接の増加は、まず終止形、タ形で生じた可能性あり

まとめ

- 結合動詞...ルール保持には世代差の傾向が見え、上の世代のほうがよく保持
 - 個人内のゆれも、世代が下るほどゆれる人が多くなる傾向
 - 全体に起伏型（-2型）が増加
 - 後部要素による偏りがある場合もあり
 - 同単語内でもゆれあり
- 後続助詞・助動詞
 - 「～ない・～たい」...本資料では無核と有核は拮抗し、世代的傾向ははっきりしない
さらに後続する要素による傾向があるかもしれない
 - 「～か」...高接、低接の頻度は同程度
高接が旧形、低接は新形の可能性あり
 - 「～と」...全体に高接が優勢
高接が旧形、低接は新形の可能性あり
「と」の用法による使い分けに世代差...「引用で低接、条件で高接」は新しい傾向か
低接の増加は、まず終止形、夕形で生じた可能性あり

今後の課題

- 今回の分析における課題
 - ・ 動詞全般のアクセントの動向
 - ・ 千葉・神奈川の扱い
 - ・ 同一人物の経年資料の扱い（今回、林大、林四郎の2つ目の資料は未分析）
- 今後の展望
 - ・ 形容詞の分析
 - ・ 後の時代（現代）の資料との比較

引用文献

- NHK放送文化研究所（2016）『NHK日本語発音アクセント新辞典』 NHK出版
- 郡史郎（2020）「日本語の助詞・助動詞類のアクセント：一覧と使い分け、変化の方向性」『言語文化共同研究プロジェクト』 p.13-24. (DOI : 10.18910/77063)
- 秋永一枝(編)（2014）『新明解日本語アクセント辞典 第2版 CD付き』三省堂
- 最上勝也・坂本充・塩田雄大・大西勝也（1999）「『日本語発音アクセント辞典』～改訂の系譜と音韻構造の考察」『NHK放送文化調査研究年報』 44, p.97-157.